



きた北海道エコ・モビリティ「地域ガイド育成事業」 サポートライダー講習会

開催概要

日時：平成29年8月6日（日）

座学編 10:00～12:00

実地編 13:00～15:00

会場：駅前交流プラザよろーな（名寄市東1条南7丁目1番地10）

講演：「サイクルツーリズムの新次元」

～美しい＆面白い＆美味しいローカルを、
ローカルサイクリストたちがお裾分けする～



北海道開発局 旭川開発建設部 地域振興対策室



はじめに

旭川開発建設部では、北海道総合開発計画の目標である、「人が輝く地域社会の形成」、「世界に目を向けた産業の振興」に向けて地域が一体となって進めている取組を支援しています。

平成28年度は、道北観光連盟との連携事業として、道北9市町村(士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、幌加内町)の自治体・観光協会や旅行会社の企画担当の方に、地域の観光資源やサイクリングコースを体感していただき、今後の観光施設の磨きあげや見せ方、必要となるメインルートの確立を目的に、「道北版スイス・モビリティモニターツアー」を開催しました。

平成29年度は、静岡県掛川市からサイクルツーリズムを通じたまちづくりを実践するお二人の講師をお招きし、掛川市で実践されている手法等をヒントに、道北地域のサイクリスト(自転車愛好家)が、地域イベント等においてサポートライダーとして活躍できるよう、講習会を開催しました。



次第

1. 開会
2. 挨拶 NPO法人なよろ観光まちづくり協会理事長 栗原 智博
3. 取組紹介等
 - (1)北海道総合開発計画と地域パートナーシップ活動について
旭川開発建設部地域振興対策室 上席地域振興専門官 南條 匡俊
 - (2)道北観光連盟の取組紹介
NPO法人なよろ観光まちづくり協会 事務局長 畑中 覚是
4. 講習会
 - (1)座学講習
「サイクルツーリズムの新次元」
～美しい&面白い&美味しいローカルを、
ローカルサイクリストたちがお裾分けする～
コンセプト(株)代表取締役/静岡県サイクルツーリズム協議会 事務局長 佐藤 雄一
サイクルランドちゃりんこオーナー/掛川観光協会 理事 山崎 清一
 - (2)実地講習
5. 閉会挨拶 旭川開発建設部地域振興対策室 地域振興対策官 東海林 隆



挨拶

NPO法人なよろ観光まちづくり協会 理事長
栗原 智博

道内各地で、自転車を活用した地域活性化を図るための取組が行われていますが、様々な課題がある中で、地域のガイドを育成していかなければ、受け入れ体制の整備は難しいものと思います。

自転車で稚内を目指す約300kmのルートは、天塩川と絡みながら宗谷本線とほぼ並行して北に向かう道のりで、その中には様々な自然があります。

この地域でしか体験できない景観、食、そして交流を活かしながら、何とかブランド力を上げて、地域として誇れるルートにしていきたいと考えています。

本日学ぶことを今後の取組に繋げていきたいと思っていますので、宜しくお願いします。



取組紹介等

(1) 北海道総合開発計画と地域パートナーシップ活動について

旭川開発建設部地域振興対策室
上席地域振興専門官 南條 匡俊

昨年3月に閣議決定された第8期北海道総合開発計画では、北海道の現状や課題を踏まえ、「食」と「観光」は北海道が世界と競争し得る高いポテンシャルがあり、戦略的産業であると位置づけています。

計画の推進に当たり、地域づくりの人材の広域的・横断的な支援・協働体制として北海道価値創造パートナーシップ活動を展開しており、本講習会は「きた北海道エコ・モビリティ」を推進する道北観光連盟との連携事業により開催させていただきます。

本日得られた知識と経験を基に、皆様が地域イベントにおけるサポートライダーや、ツアーガイドとしてご活躍いただき、各地域、そして広域連携のネットワークづくりにも寄与することに繋がれば幸いです。



取組紹介等

(2) 道北観光連盟の取組紹介

NPO法人なよろ観光まちづくり協会 事務局長
畑中 覚是

道北観光連盟は、南は和寒町から、北は中川町にかけて、全9市町村における観光部門の連携組織です。

昨今サイクリングの気運が著しく上昇している中、本講習会の成果を踏まえ、地域のサイクリストがお客様をご案内できるような仕組みづくり、またサポートライダーとしての対応等において、多くの皆様にご協力いただきたいという趣旨のもと、この事業を企画しました。旭川を出発して宗谷岬を目指す「TEPPEN-RIDE」の開催に向け、サポートライダーの募集も行っているところです。

サイクルイベントは、この地域においても今後増えていくと予想しており、サイクリスト同士の横の繋がりが、ゆくゆくは組織化への構想にもご協力いただければ幸いです。



講習会「サイクルツーリズムの新次元」

【講師プロフィール】

～美しい＆面白い＆美味しいローカルを、ローカルサイクリストたちがお裾分けする～

コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤 雄一 氏

商品 商環境 デザイン 建築 空間 地域 観光の調査研究・企画開発・
計画推進の総合プロデューサー

2000年にコンセプト株式会社を設立し、ローカルツーリズムの研究と普及活動の実践、地域資源の活用と自然回帰型ライフスタイルを提案。「スローに地域の資源を見直そう」とサイクルツーリズムの研究と普及活動を実践し、伊豆・狩野川流域、浜名湖畔における事業化、遠州地域における「ゆるゆる遠州ガイド」の商品化等を手がける。また日本酒や焼酎、緑茶等の地域商品化など多方面で活躍。

静岡県掛川市では景観審議委員など地域のまちづくりにも関与し、ツール・ド・北海道 国際大会等のあり方委員や、十勝管内豊頃町との地域間交流による食とツーリズムの『互産互消』活動に取り組むなど、北海道との関わりも深い。

- ・静岡県サイクルツーリズム協議会 事務局長
- ・合同会社互産互生機構 代表社員
- ・ローカルライフスタイル研究会 事務局長



コンセプト株式会社HP
<http://www.conception.co.jp/>

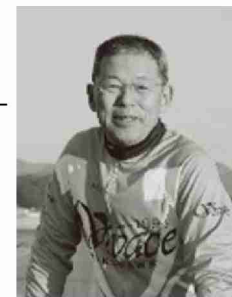
サイクルランドちゃりんこオーナー 山崎 清一 氏

バラエティに富んだ魅力あるサイクルツーリズムの適地である掛川に、自転車を楽しむサイクリストを増やしたいという思いで30代前半にサイクルショップを開業。

掛川市に拠点を置くサイクルレーシングクラブを主催し、レースイベントへの参加から、初心者向けのサイクリングなど、自転車好きの仲間と一緒に楽しめる様々なイベントを随時企画している。

掛川市のサイクルツーリズムの主流になっている「ガイドサイクリング」の中心的役割も担っており、掛川市を市内外に広く発信するため、人物を通じて、掛川市の今・これからの紹介する冊子「KAKEGAWA WAY」において、「地域の自転車文化に多大な貢献をしてきた熱狂的サイクリスト」として紹介されている現役ロードレーサー。

- ・掛川観光協会 理事
- ・自転車レーシングクラブVIVACEかけがわ 主催
- ・ゆるゆる遠州ガイドコース設定責任者 & ガイドリーダー



サイクルランドちゃりんこHP
<http://www.cycleland-charinko.com/>



サイクルツーリズムの新次元

佐藤 雄一

サイクルツーリズムの種類

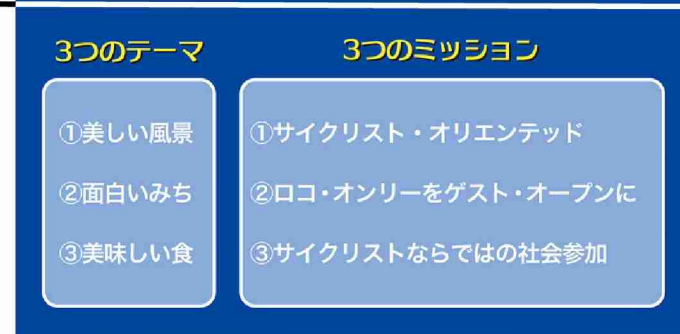
サイクルツーリズムは、大別して「イベント」、「レンタサイクル」、「ガイドツアー」の3つに分かれます。イベントとしてはロングライド、レース、ヒルクライムが行われ、最近では100km、120kmという長距離を走るロングライドが盛んに行われています。レンタサイクルは、都市の中をビジネスあるいはレジャーで走るという都市型のレンタサイクルと、ローカルを自転車で観光するものに分かれます。北海道のガイドツアーではスポーツライドが特に多く、宿泊しながら長い距離を走ることが多いようです。一方、京都などで町の中を走るシティライドや、アマチュアのサイクリストによるローカルライド、これらがガイドツアーとして行われています。



3つのテーマ、3つのミッション

ガイドサイクリストがゲストに提供するべきものは、①美しい風景、②面白いみち、③美味しい食。北海道には「美しい風景」や「美味しい食」はたくさんありますが、②の「面白いみち」の選び方や、右折をできるだけ減らすなど、走り方も重要な要素です。

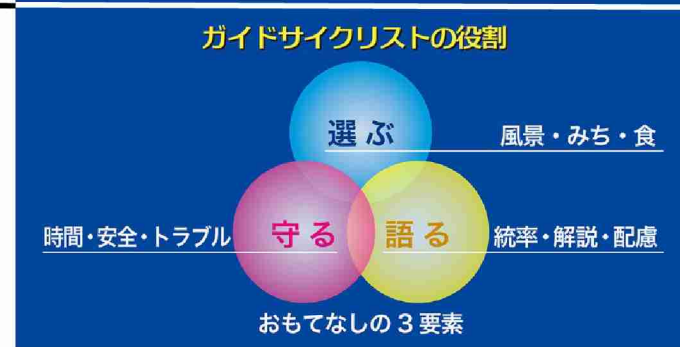
ガイドライドの3つの使命のうち、①「サイクリスト・オリエンテッド」とは、サイクリストのためのツアーでなければならないということ。②「ロコ・オンリーをゲスト・オープンに」とは、ロコサイクリストしか知らない道や風景などを、いかにゲストの方々に対してオープンにしていこうかということです。そして、③「サイクリストならではの社会参加」とは、ロコサイクリストの皆さんが肩肘張らず、ロコサイクリストなりに地域づくりや地域振興、観光活性化等に参画していくことです。



ガイドサイクリストの役割

「おもてなしの3要素」として、「選ぶ」、「守る」、「語る」ということが大事です。たとえば「選ぶ」はみちを選ぶことでもあり、スポットを選ぶことでもあり、どこで何を食べるかなどを選択することでもあります。「守る」は、安全確保やトラブル回避のほかにも、時間を守ることも大切です。ゲストの中にはゴール予測の時間に合わせて公共の乗り物を予定している場合もあるからです。

「語る」で気をつけなければならないのは、観光地の説明などの際、できるだけ自分の言葉で解説するということ。また、相手の立場に立って話すという配慮が必要です。たとえば初心者の方がツアー中に遅れてしまった時など、「サポートカーに乗りますか？」と言うのはリタイア宣告に近いものがあるだけに、相手を傷つけないよう切り出すタイミングの見極めが重要です。



チーム編成とブリーフィング

チーム編成は、20名のゲストに対して、ガイドリーダー1名、カメラマン兼ガイド1名、メカニック系ガイド1名、盛り上げ役のエンターテイメント系ガイド1名、レディースガイド1名の5名が理想です。そのほかにサポートカーの担当者が1名、サポートスタッフがもう1名いると、安定した運営が可能になると考えられます。

サポートカーの役割は、合流した際の調整と対応をはじめ、休憩・立ち寄り箇所の調整と準備、ゲストの体調やバイクの状態の観察と対処、さらに空気入れ・工具・レスキュー&エイドキット等の持参と活用などなど、数多くあります。

サイクリングを始める前に行うブリーフィングでは、ホスト側とゲスト側の自己紹介、ホストの役割分担を紹介しします。これは、「私は先頭を走ります」、「私はアンカーです」、あるいは「中間を走りますから皆さんと前後します」、「私は撮影します」というように、ホスト側の役割分担を説明するものです。それから、走行上の注意・トラブル対処の説明、サポートカーの使い方、最新のルート状況、テクニカルアドバイスなどを行います。

ロコガイドについて

ロコガイドは、地域の価値ある「風景」、「みち」、「食」を知る必要があります。そして『ここにしかない』、『これしかない』、あるいは『今しかない』、この3つを知ってもらうこと。もう一つ大事なものは、やはりサイクリストの気持ちはサイクリストが知る、ということです。また、ロコガイドでは経験値に基づくセンスが重要で、経験を積むことによってセンスが磨かれていきます。

最後に、5つの注意点を大切に。5人の「チームワーク」、「価値観」、「時間」、「作法」、「常識」。ここでいう作法や常識とは、ゲストの前でとるべき態度、避けるべき言動などのたしなみや配慮を指すものです。

これからのサイクルツーリズム

① “進化形自転車旅”へ

→ 自転車は旅の道具～旅は道連れ。旅先のロコサイクリストと共に走る“進化形自転車旅”へ。

② “生活観光”へ

→ 旅人にはその土地の人になってみたい思いがある。その土地の人になりきってもらう体験“生活観光”へ。

③ 地域のみんががサイクリストである

→ 「サイクリストウェルカム」からその先に、「地域のみんががサイクリスト」と言われる地域が一番強い。

チーム編成

●ガイドリーダー	1名	} 5名 ガイドサイクリスト
●カメラマン系ガイド	1名	
●メカニック系ガイド	1名	
●エンターテイメント系ガイド	1名	
●レディースガイド	1名	
.....		
●サポートカードライバー	(1名)	} 1~2名 サポートスタッフ
●(サポートスタッフ)		

ガイド、サポートスタッフの役割

- 先回り、後追い、合流の調整と対応
- 休憩、立ち寄り箇所の調整と準備
- ゲストの体調、バイクの状態の観察と対処
- 空気入れ、工具、レスキュー&エイドキット等
- 緊急時の対応を本部・サポートカーと調整
- 撮影、坂道応援、お土産購入アドバイス

ブリーフィング

- 自己紹介(ホスト&ゲスト)
- 役割分担紹介(ホスト)
- 走行上の注意・トラブル対処
- サポートカーの使い方
- 最新のルート状況(路面・天候)
- テクニカルアドバイス

ロコガイド

- 地域の価値ある風景・みち・食を知る
- ここしかない、これしかない、今しかないを知る
- サイクリストの気持ちはサイクリストが知る
- 経験を積むことで「センス」を磨く
- 5つの注意点を大切に
(チームワーク、価値観、時間、作法、常識)



ガイドライドとは

ガイドライドとは、ガイドがゲストサイクリストを先導・サポートし地域ならではの資源(ヒト・モノ・コト)に触れながら巡る自転車旅。ガイドが発掘・再発見した地域の資源を結んでルートを設定し、自転車目線で地域を遊ぶスタイルのサイクリング。



出発前のフリーライニング



ガイドと一緒に安心ライド



記念写真

ツアー全体の構想

ゲストと走っている様子をイメージする。

★テーマの設定

- 新緑の風景、歴史、名所、里山、農風景、フルーツ、川、花畑、紅葉など
- ライド時間(スタートとゴールの時間)
- 食事の有無
- ハイライト(景観・道・訪問先)の設定
- ゲストの人数
- ゲストの年代や経験 など



スタートとゴールの時刻を設定



ハイライトシーンを設定することで印象に残る旅に



特徴のあるコースを複数設けることでターゲット層が増加

スポット選び

美しい風景、面白いみち、美味しい食を念頭にスポットを選ぶ。いつも走っている見慣れた道もゲストにとっては大きな魅力となることも。北海道の場合は日常の農業風景そのものが素晴らしい景観を作り出している。



一面のソバ畑を駆け抜ける。北海道ならではのワンシーン



苦勞して丘を登れば、それだけ眺望が開ける



変化に富んだコースやスポットを、ゲスト目線で設定



ルート選びのポイント

路肩が狭い道や交通量の多い通りはなるべく避け、余裕を持って走行できる道を選択。集団で交差点を直進する時は左折車の邪魔になりがち。コース全体を左回りにしてなるべく右折を減らすなどの工夫が必要。コース後半ではゴール時間調整のため時間調整ルートを用意しておくとうい。

風景だけでなく、車では気づかない風・香り・音など存分に感じられる道をルートに入れたい。



事前準備

ガイド

- ・コースの試走
- ・ガイドサイクリストの役割分担を確認
- ・サポートカーとの事前調整
- ・サポートカーとの連絡手段を確認
- ・病院等、緊急連絡先を確認

コース試走時の注意

- ・十分に余裕を持ったペースで
- ・なるべく当日と同じ時間帯に
- ・大人数での走行をイメージ
- ・写真撮影ポイントの確認
- ・ガイド候補者を積極的に連れていく

実施当日に近い条件で試走
ツアー中に提供する話題の準備

サポートカー

- ・通過スケジュールの確認
- ・各所との連絡
- ・通過人数の確認
- ・荷物預かりの依頼
- ・修理工具/救急箱等の積載

常にツアーに帯同する必要はなく
ガイドと申し合わせた場所で待機
走行速度は意外に速い →
早めの移動を心がける

昼食・おやつ

- ・人数確定の期限
- ・メニューの特定/限定
- ・提供時間/方法の確認
- ・料金徴収の方法
- ・当日手間のかからない方法を例)メニューはスタート前に選択し代金もその際に徴収など
- アレルギーや不得意なゲスト向けに別メニューの有無を確認

立ち寄りスポットとの調整

- ・料金および支払方法の確認
 - ・駐輪場所の確認
 - ・見学方法
 - ・解説を依頼するか否か
 - ・雨天時の対処
- 駐輪場所は事前確認で確保
自転車の見張りが必要な場合
→ガイドやサポートカー担当者
で対応

ゲストへの事前連絡

- ・集合時間/場所/持ち物
- ・予想気温等の情報
- ・当日支払い代金の有無
- ・当日の連絡先

ガイドサイクリストの役割分担

【先頭】

- ・コース/隊列誘導
声出し、ハンドサインによる案内
分岐点チェック
- ・ペース配分
グループの力量に合わせた速度の調整
後続グループとの間隔の調整

【中間】

- ・コース誘導
声出し、ハンドサインによる案内
離れた時の先導/隊列全長の調整
曲がり角の誘導/横断時の安全確認
一旦停止の誘導
- ・トラブル対処
パンク、メカトラブル等の対応
先導者への報告、アンカーへの引き渡し
走行時の連絡事項の伝達

【アンカー】

- ・グループのチェック
最後尾者のサポート
グループ全体・ゲストの様子チェック
後方からの安全確認、声出し
- ・トラブル対処
パンク、メカトラブル等の対応 など

【共通】

自分の体験に基づいて地域資源を解説する
地域資源に対する一定の知識は必要
(アンチョコを見ないで説明する)
ゲストの写真撮影をサポート
ガイド間およびサポートカー担当者で役割分担と
ツアーのイメージを共有



Photo Gallery



閉会挨拶

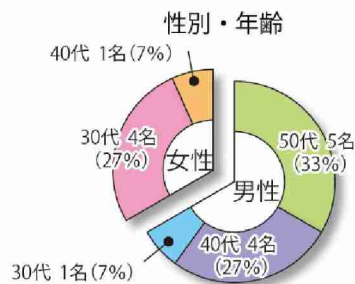
旭川開発建設部地域振興対策室
地域振興対策官 東海林 隆

先日、剣淵町主催で開催されたぐるっとライドというサイクルイベントに参加しましたが、本当に大勢の方がボランティアとして尽力されていました。サイクルツーリズムが地域をあげての取組として進んでいくことを実感し、これを推進していく中で、今後ますます地域のサポートライダーの育成が重要になってくると思います。

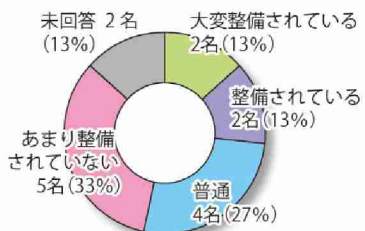
我々北海道開発局は、上川地域をはじめ、北海道の食や観光を担う生産空間を支えるため、これからも地域パートナーシップ活動やシーニックバイウェイの取組等を通じ、サイクルツーリズムをサポートさせて頂きたいと思います。



アンケート調査の結果概要

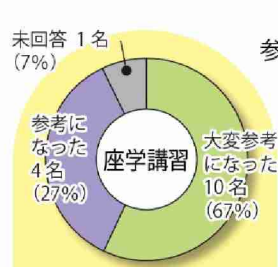


あなたの地域のサイクルツーリズム環境

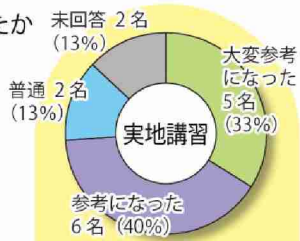


サポートライダーに必要な資質や条件

- ・サポートライダー自身楽しく走行できることが必要。地域の情報を説明できること(人、物、歴史等) 参加者に合わせたルート、時間、食の選定。
- ・参加者に自分の言葉で語りかける事の重要性についてサポートライダーとしての活動を社会参画や地域貢献に根ざし、ライフワークとして取り組むべきとの指摘に感銘を受けた。
- ・コミュニケーション能力。ローカルしか知らない知識、場所、会話の引き出し。
- ・知識(自転車、安全、自分の町の)とコミュニケーション能力。
- ・常に安全を意識して取り組み、ツアー客を楽しませる事ができる人材。
- ・自らもサイクリングを楽しむこと、地域をよく知ること、コミュニケーション能力
- ・地域のビューポイントなどの情報知識。
- ・コミュニケーション能力、ホスピタリティ、地元愛、知識と経験等々必要。など



講習会は参考になったか



サポートライダーが活躍するために必要な仕組み

- ・ライドツアーの状況によるが、広域になれば幅広いガイドのつながりが必要。地元だけのライドツアーであれば街全体が協力する。ガイドライド講習会の定実施。
- ・熱意と強力なリーダーシップを持った人材が地域にいること。そういう人達の活動が持続できるような行政や社会のバックアップ。
- ・地域住民、行政との連携、楽しくできる範囲(時間、責任)で参加できる仕組み。
- ・サポートライダーをうまくつなぎ回結させ、消費者につなげること。
- ・官・民が一体となり地域のライダー育成に助成すること。 など

- ・サイクルツーリズムの取り組みとしてガイドライドというものが実践されていて、その意義や具体的な内容を知ることができた。
- ・写真などでガイドライドの様子がよく分かり参考になった。私たちの町でもローカルガイドによるツーリングを実施したい。
- ・裏話などでツアー客に楽しんでもらう。常に左回りのコース設定を基本とする。相手(ツアー客)に合わせたコース設定をするなど。
- ・班編成は役割などガイドツアーのノウハウ。
- ・自分達の地域でサイクルガイドを行うためには何が必要か、実際に掛川市での事例を学ぶ事が出来た。ガイドライド実践までの説明資料がとても分かり易かった。 など

- ・先導、中間、後続の役割 合図の確認(わかりやすい事、声をかけることの重要性)。全体のスピード(参加者に合わせた走行)。
- ・走行時のガイドの役割が明確になったこと。特に中間者がグループ走行を安全、快適、スムーズに運ぶため多岐にわたる役割を果たす必要があること。
- ・ハンドサインや声だし。
- ・周囲への目くばりの大切さ。
- ・手でのサイン方法。集団での安全な走り方など。
- ・隊列が伸びた場合の対応など。
- ・手信号など基本的な動作や声かけなど。 信号のない交差点を渡る際の注意点。出発前の持ち物の説明。 など

サイクルツーリズムが地域に浸透するために必要なもの

- ・市町村各自で行っているライドをつなげる仕組みが必要。道北は特に町から町へとゲストが流れる様なツアー企画等。
- ・自転車が日常生活の便利で楽しい道具としてもっと使われるようになり、その延長線上に多様なサイクルツーリズムを享受できるような機会が増える事。流通や経済の面からもサポートできるようにすること。
- ・参加者はおいしい地域の食と域外から来た人が一人では見えないローカルな楽しみ、知識を伝えること。地域にはお金が落ちること。参加者との交流がもてること。
- ・告知、消費者が満足いくツアーにどう仕上げるか、地元の盛り上がり、理解
- ・サイクリストのネットワークづくり、広報誌などへの掲載。
- ・市民、近隣市町村への周知、理解。ガイドボランティアの人員確保、広報PR(連携で)。

n=15

